

## 2025年10月「生成AIの利用に関する意識調査」(首都圏)

公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会(NACS)消費生活研究所提言グループは、東京都くらしフェスタのイベントに来場した10代から90代までの生活者を対象に、「生成AIの意識調査」(調査期間:2025年10月24日~25日、有効回答者数345)を実施しました。以下に、本調査の主な結果を報告いたします。

生成AIの存在感が高まる中、利用は幅広い年代に広がり、全体の5割以上が何らかの形で活用していることが分かりました。その一方で、信頼は限定的で、不安や認知不足を理由に利用をためらう生活者も一定数おり、生成AIの活用に関して概ね慎重な姿勢が伺えました。

### 【調査概要】

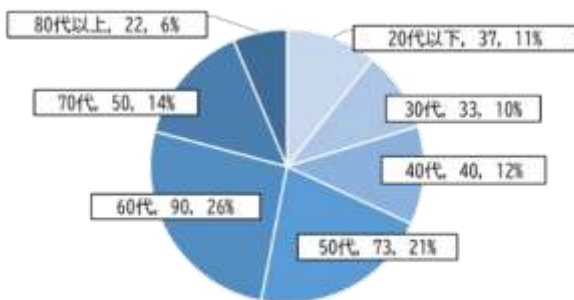
1. 調査の目的:生成AIについて利用状況と意識について調査し、結果を分析
2. 調査内容:利用状況、期待すること、不安なことを調査
3. 調査期間:2025年(令和7年)10月24/25日の二日間
4. 調査対象:一般の消費者 回答者数:367人 有効回答:345
5. 調査方法:アンケート用紙に手書き記入 それをGoogleフォームに入力後集計
6. 東京都交流フェスタ出展ブースにて収集(東京都新宿駅西口イベント広場)

### 【設問】

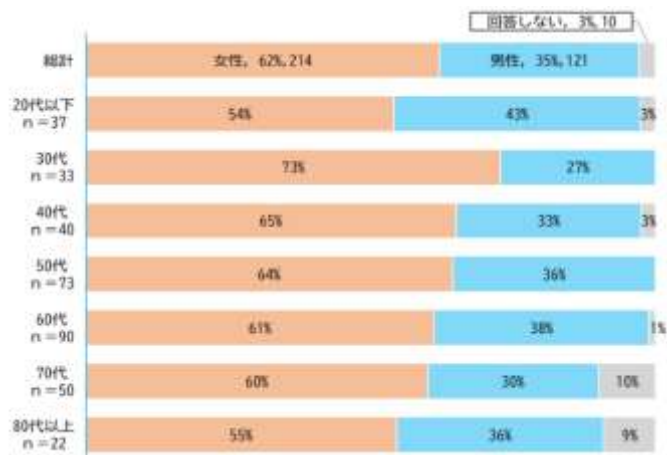
- 問1. 生成AIについて 知っていましたか?(1つ)
- 問2-1. 利用したことがありますか?(1つ)
- 問2-2. 何に生成AIを使っている/使いましたか?(いくつでも)
- 問3. 生成AIの作り出したものや結果を信じますか?(1つ)
- 問4. 生成AIに期待することは?(いくつでも)
- 問5. 生成AIへの不安や心配はどんなこと?(いくつでも)

### 【回答者のプロフィール】

年代(単位:人、%)



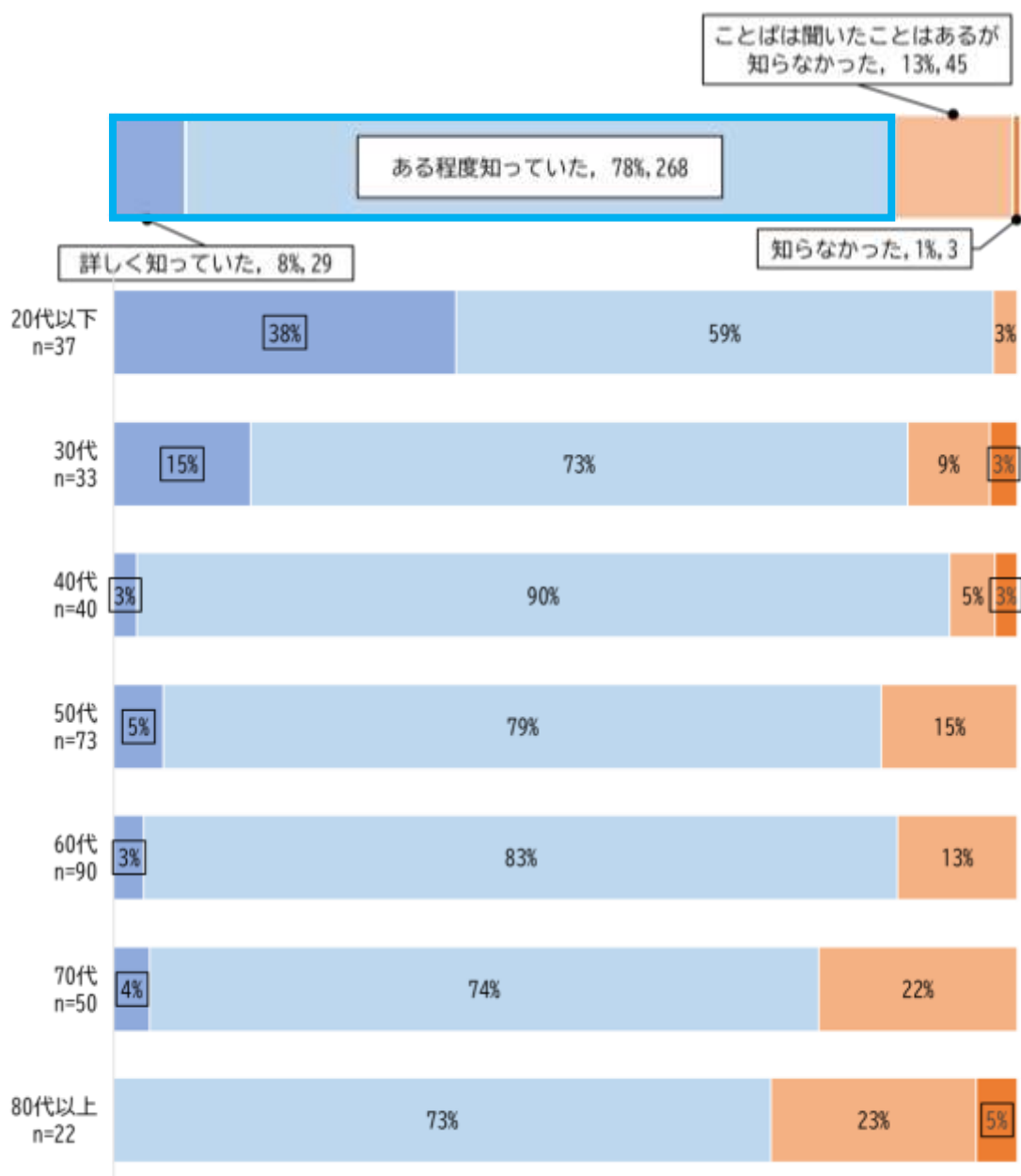
性別(単位:%)



## 【調査結果詳細】

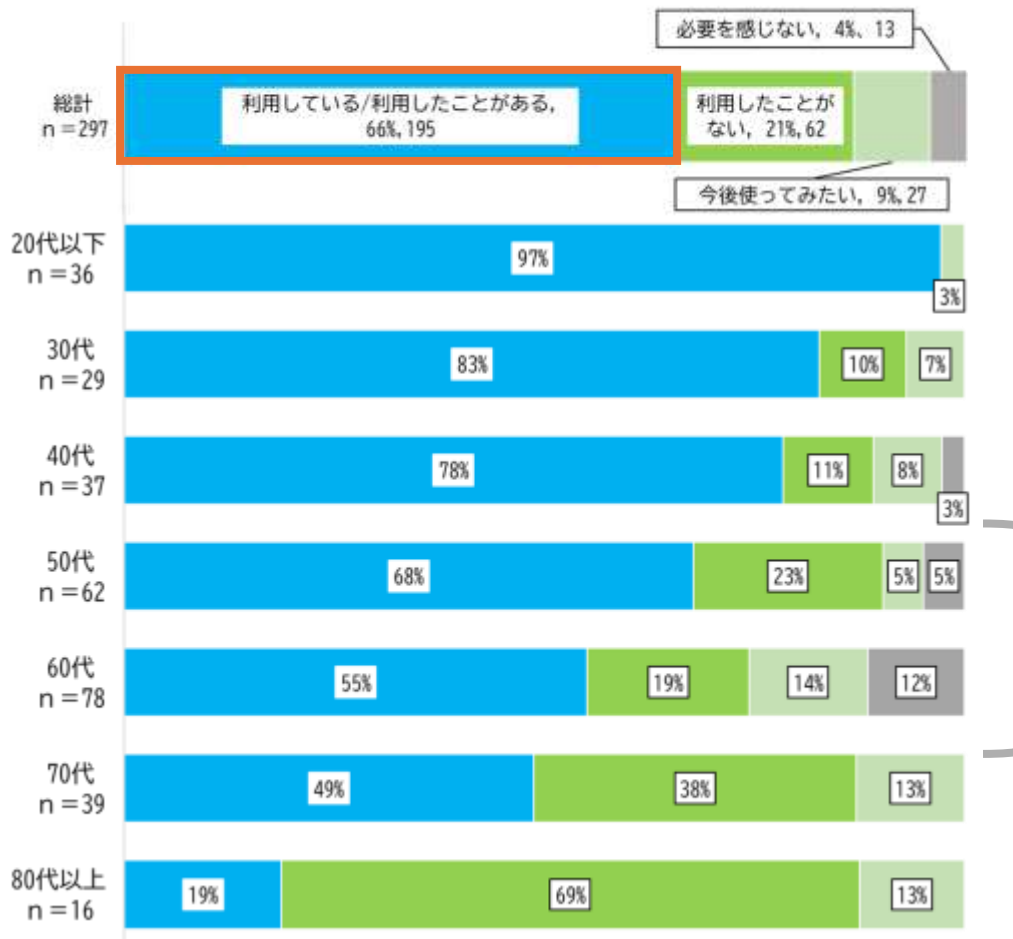
### 問1：生成AIについて知っていましたか？n=345（単位：%、人）

生成AIのことを知っているかについて聞いた。「詳しく知っていた」と「ある程度知っていた」を合わせると86%。「言葉は聞いたことはあるが知らなかった」は13%、「知らなかった」は1%であった。「生成AI」がなんであるかが、広く知られていることが確認できた。



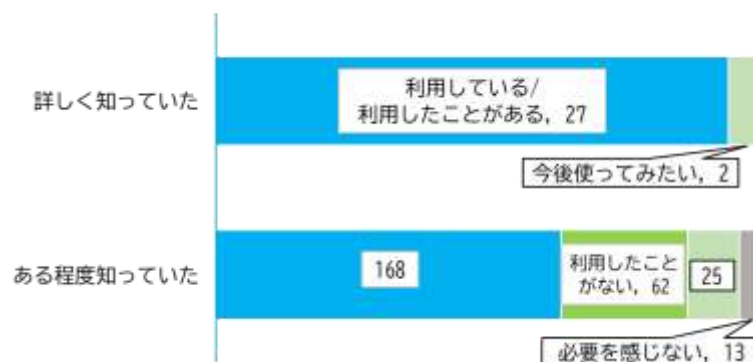
問 2-1：生成 AI を利用したことがありますか？ n = 297（単位：%、人）

生成 AI を知っていた人に、生成 AI の利用の有無を聞いたところ、実際に「利用している/利用したことがある」人は 66% で、半数以上の人には利用経験があるという結果である。「今後使ってみたい」の 9% と合わせて、生成 AI の利用は生活や仕事の面でかなり浸透してきていると言える。年代別では 10・20 代には「利用したことがない」「必要を感じない」はいなかった。「必要を感じない」を選択したのは 40 代以上であった。

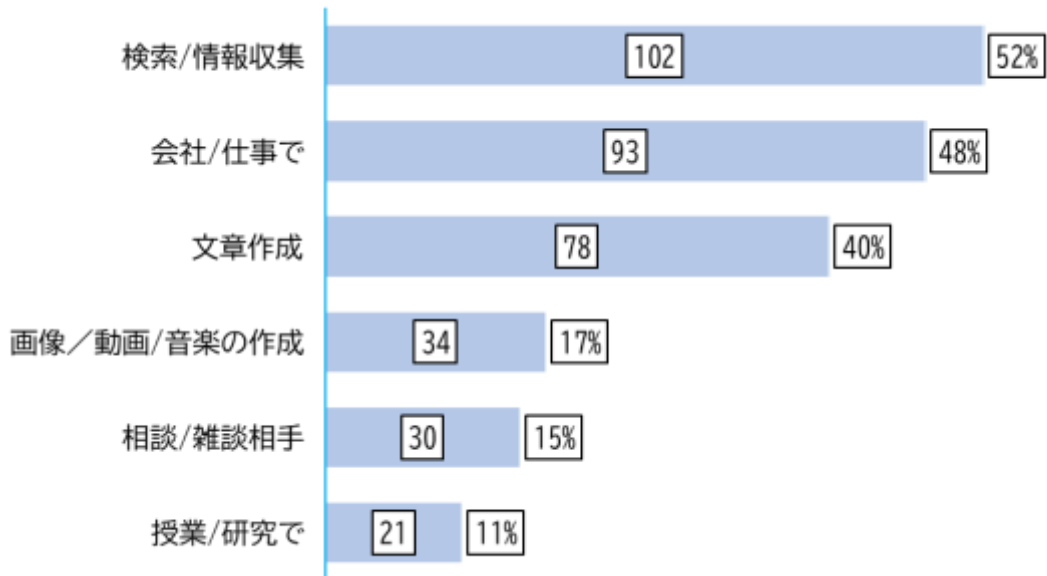


知っている×利用の有無（単位：人）

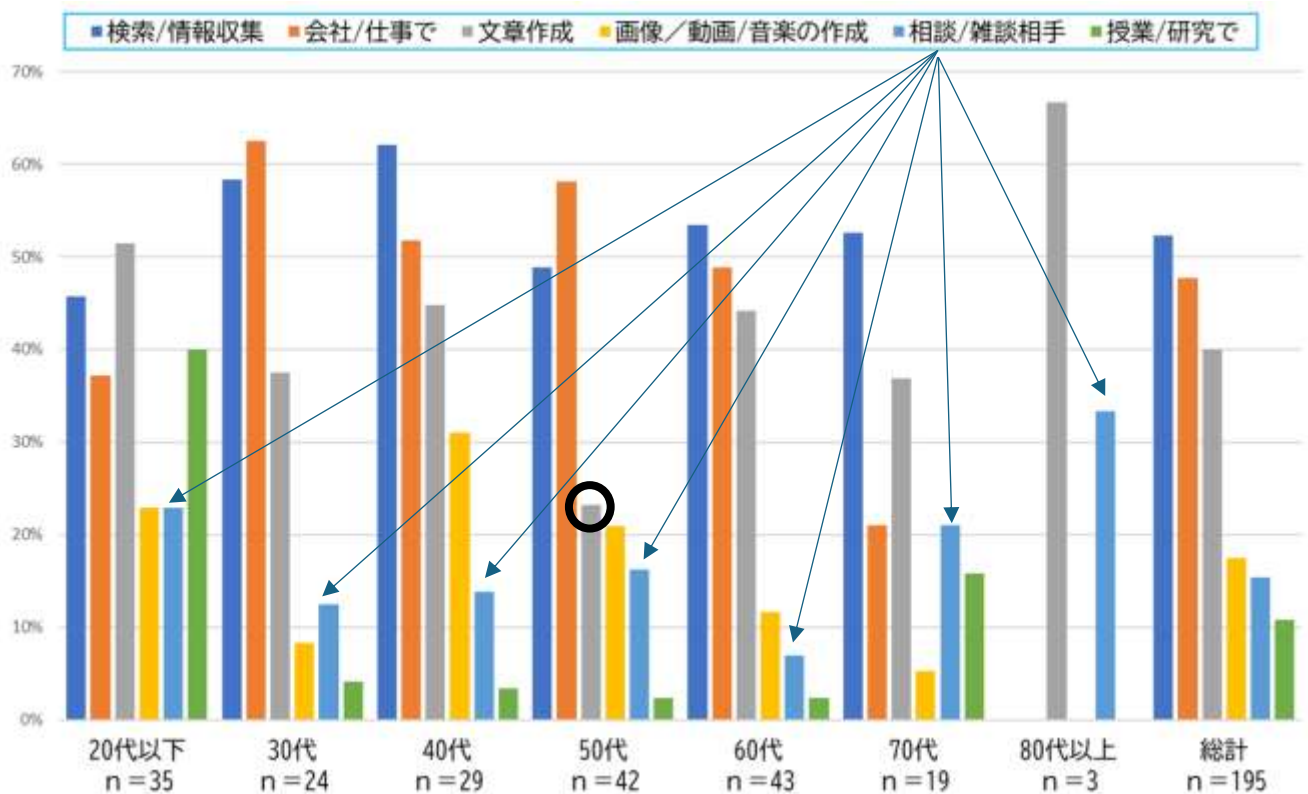
生成 AI について「知っている」ことと「実際に利用する」ことには差がある。知っていても必要性を感じていなかったり、利用していなかったりする人が一定数おり、そこには利用を躊躇させる要因があると考えらる。



問 2-2：何に生成 AI を使っている/使いましたか？（複数回答）（n=195 人 単位：%、人）  
 生成 AI を利用している人に何に利用しているか聞いたところ、多い順に「検索/情報収集」52%、「会社/仕事で」48%、「文章作成」40%と回答。「画像/動画/音楽の作成」17%、「相談/雑談相手」が 15%と続いた。創造的要素の利用は限定的であった。年代別に見ると、利用目的に若干の差が出た。50代は他の年代と比べ「文章作成」の利用が少ない。  
 80代以上含め各年代相談先としての利用も見られる。

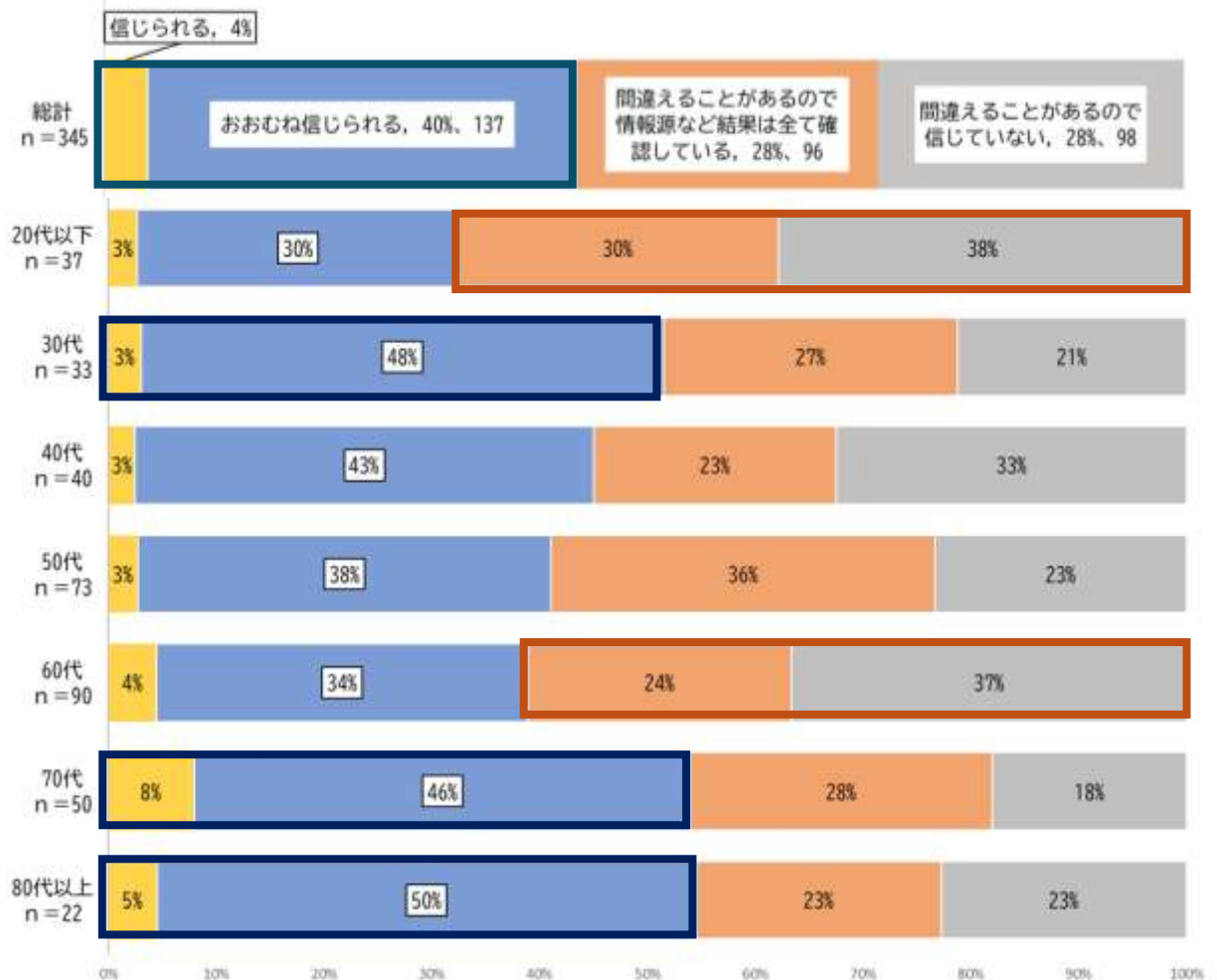


何に生成 AI を使っている/使いましたか？ 年代別（単位：%）



問3：生成AIの作り出したものや結果を信じますか？（単位：％、人）

生成AIの作り出したものや結果を信じる人は「信じられる」「おおむね信じられる」を合わせると44%。「結果を検証している」人は28%。「間違えるので信じない」を合わせると半数以上の56%になる。年代別では10・20代、60代は他の年代より結果を信頼していない人が多いようだ。30代、70代、80代以上は信じている割合が高い。信頼が限定的である背景には、偽・誤情報や思考力低下への不安が強いことが影響していると考えられる。（問5）



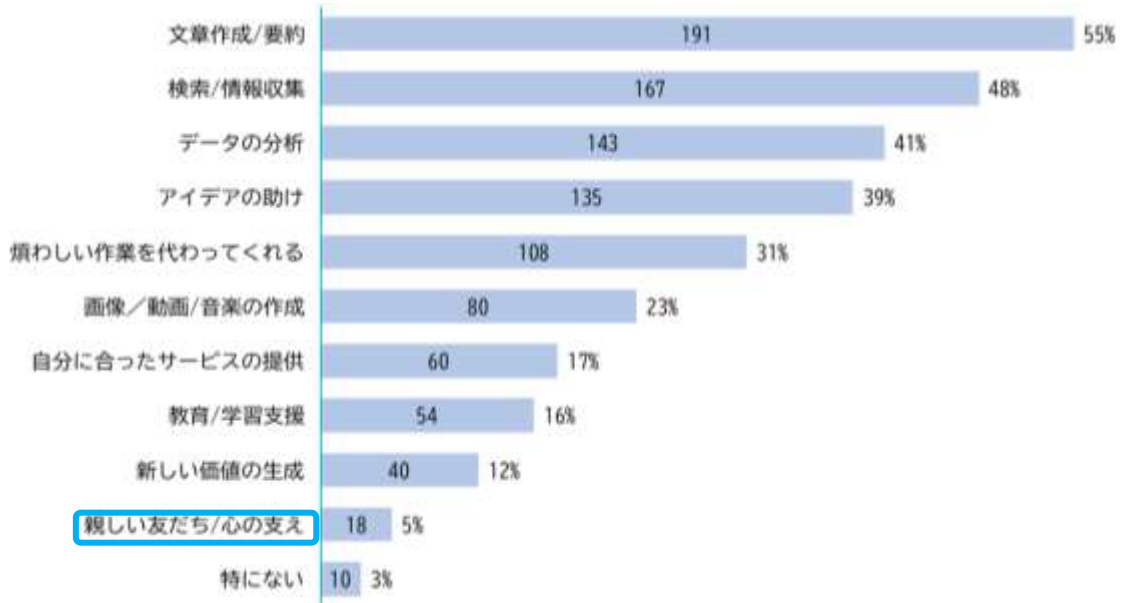
利用したことがある人と今後使ってみたい人の信頼度の違い（単位％）

利用したことがある人と、ない人の結果に対する信頼度の違いは、利用経験のある人の約半数が結果を信じられるとしている。結果に対する信頼が利用する上で重要と考えられる。



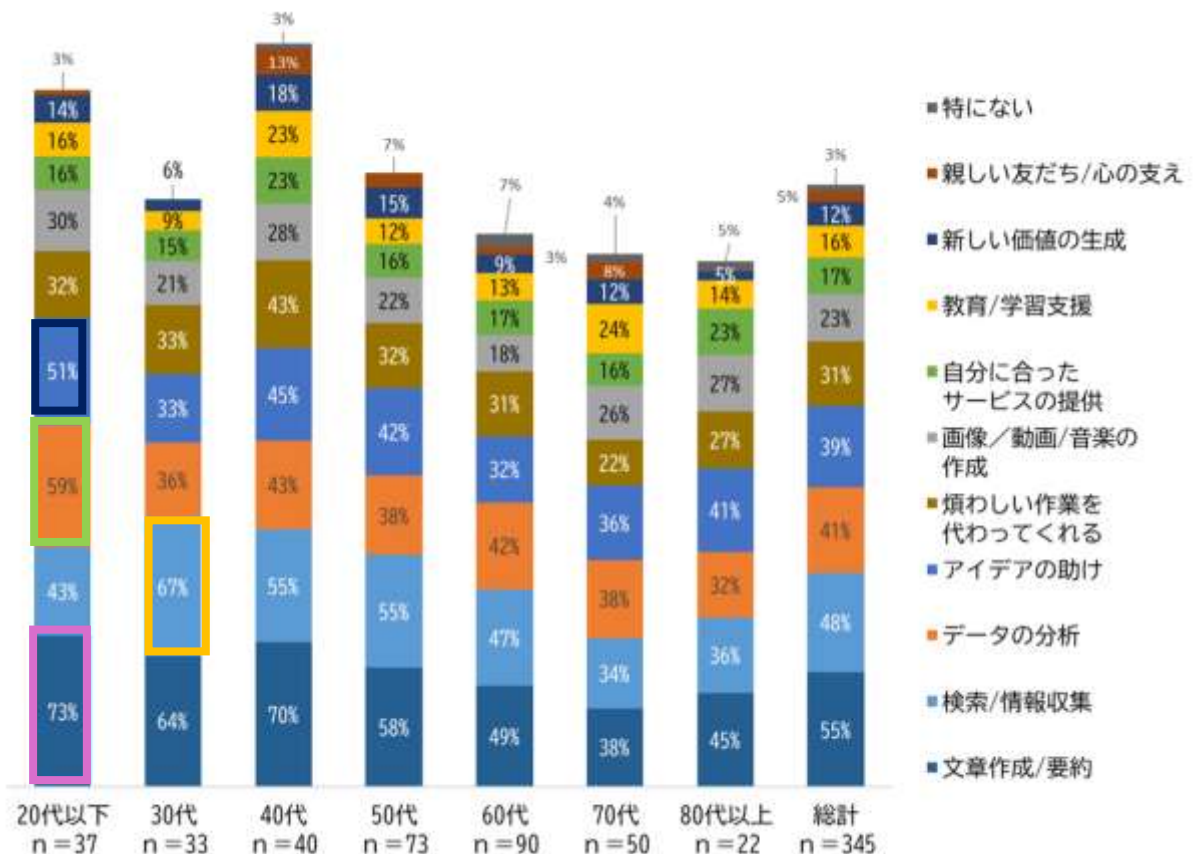
問4：生成AIに期待することは？（複数回答）（n=345 単位：人、%）

生成AIに期待することでは「文章の作成」55%、「情報検索」48%、「データ分析」41%、「アイデアの助け」39%、「作業の代り」31%が続いた。友達や心の支えに期待する人は少数である。全体的に日常利用していることへの助けを期待しているようだ。



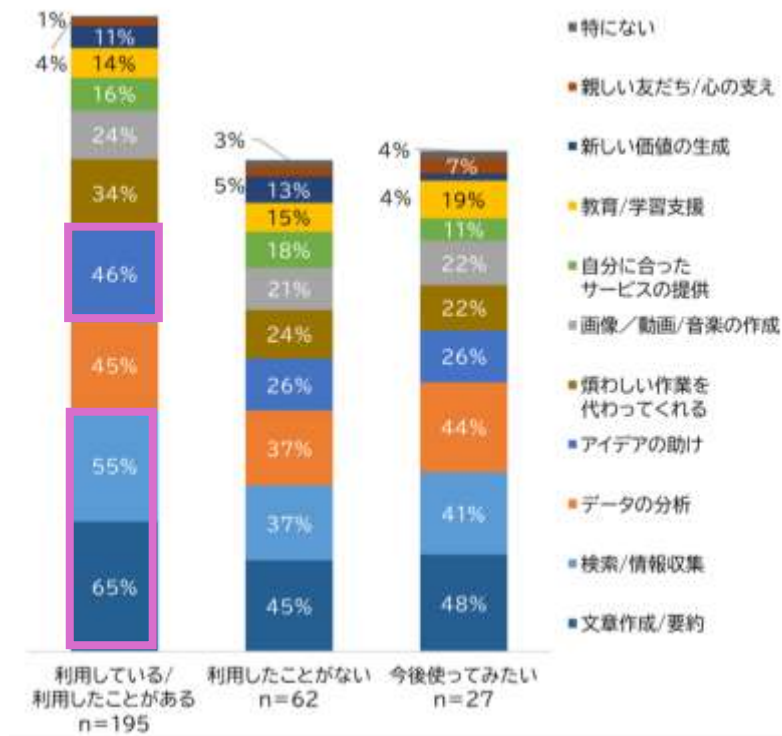
生成AIに期待することは？ 年代別（複数回答）（単位 %）

年代別にはあまり顕著な特徴は見られない。10・20代は「アイデアの助け」「データ分析」「文章の作成」に期待が大きい。30代は「情報検索」に一番期待している。



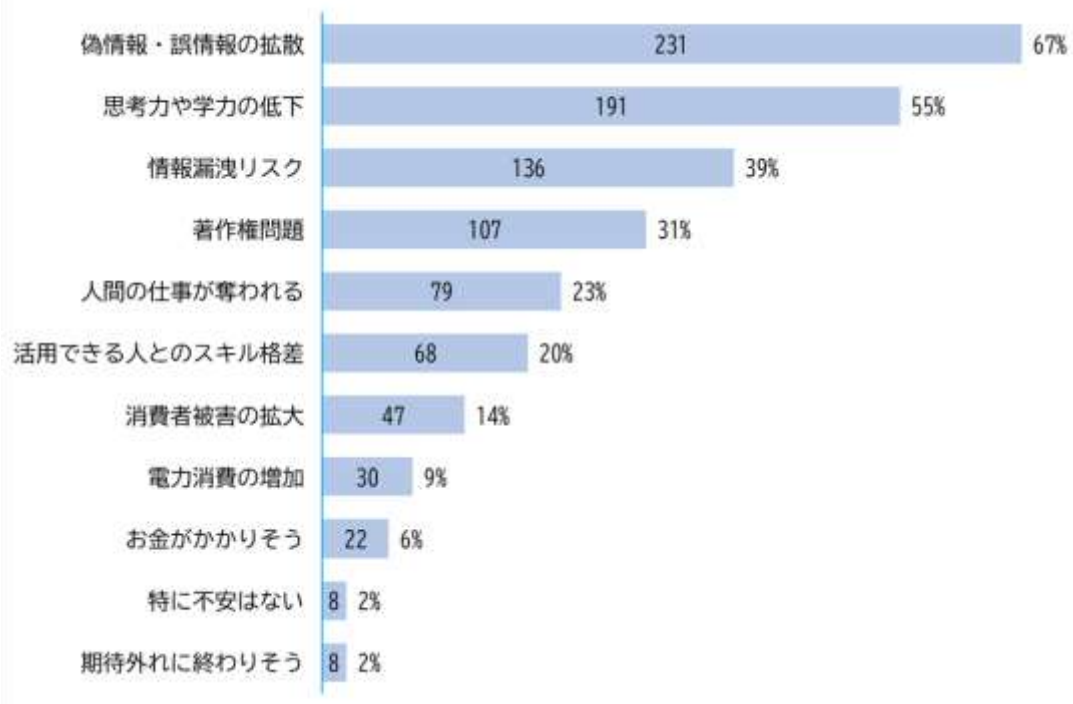
### 生成 AI 利用の有無と期待（複数回答）（単位 %）

利用しているかどうかで期待することに違いはあるのを見ると、利用の有無の違いで、期待する項目に差は見られない。利用経験のある人は「文章作成」、「情報検索」、「アイデアの助け」に利用したことがない人より期待を持っていることが確認できる。



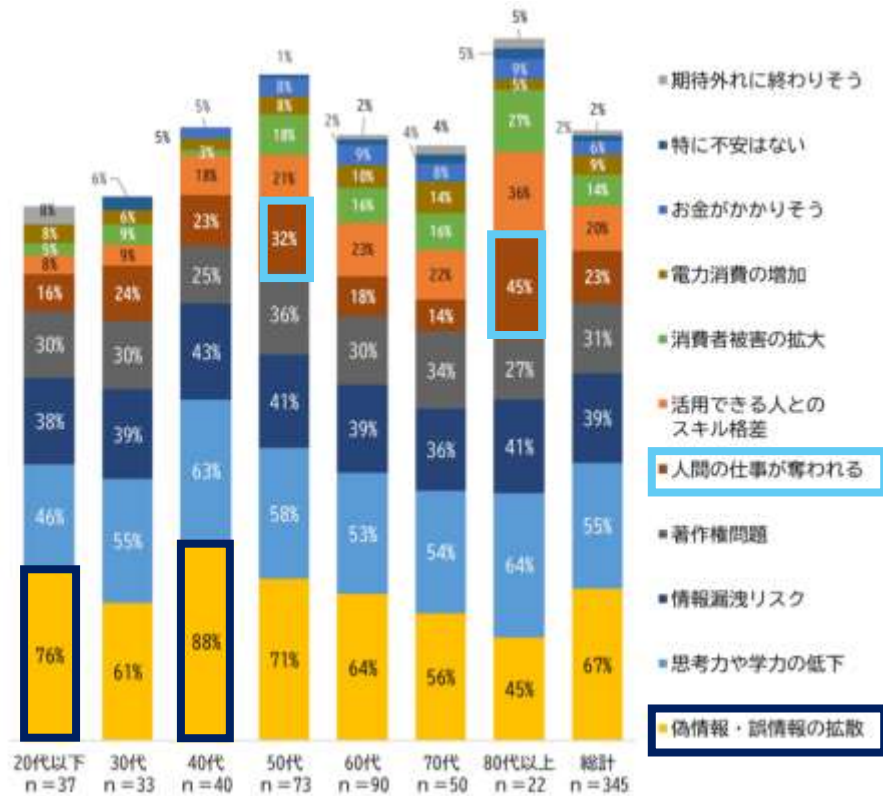
### 問 5：生成 AI への不安や心配はどんなことですか？（複数回答）（n = 345 単位：%、人）

生成 AI に対する不安や心配を聞いたところ、半数を超えたのは「偽・誤情報の拡散」67%、「思考力の低下」55%。「情報漏洩リスク」39%、「著作権問題」31%、「仕事が奪われる」23%、「スキル格差」20%が続いた。社会的リスクと個人のリスク、双方に不安がある。



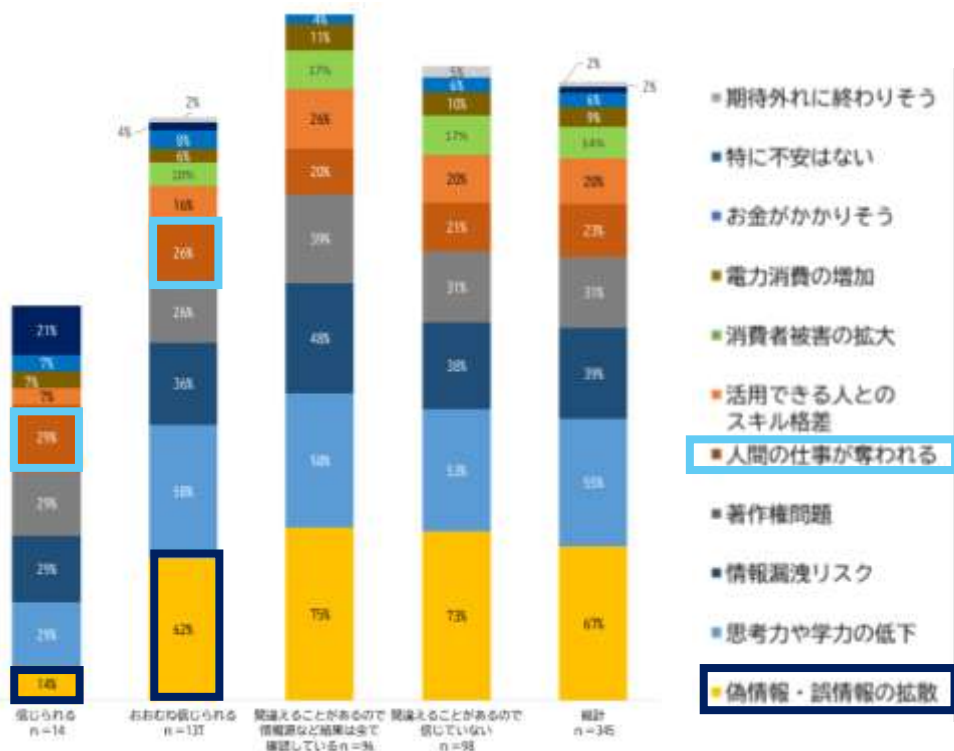
### 生成 AI への不安や心配はどんなことですか？年代別（複数回答 単位%）

不安や心配を年代別で見ると「偽・誤情報」に不安は10・20代、40代が強い。「人間の仕事が奪われる」は50代80代が強い。「スキル格差」は50代以上で不安が大きくなる傾向がある。



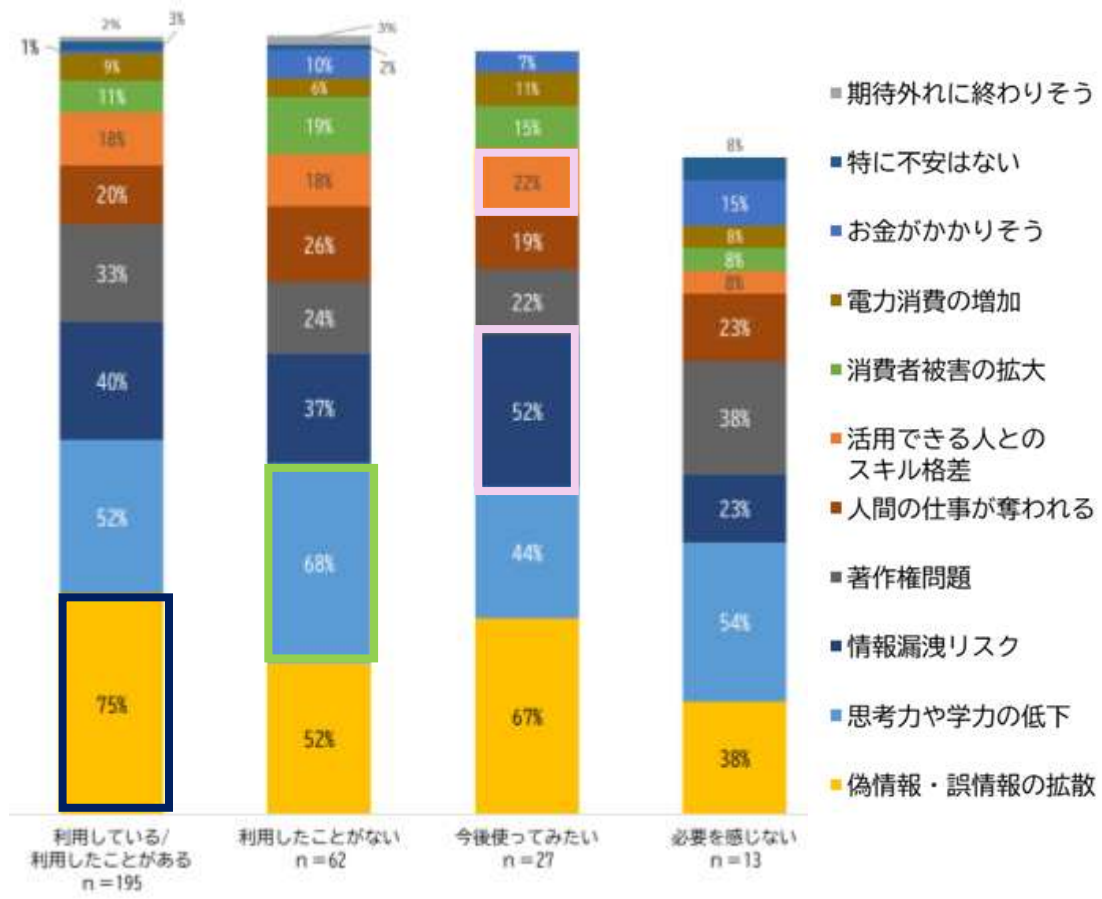
### 生成 AI の結果の信用度と不安や心配（複数回答 単位%）

結果を信じる人はどんな不安を持っているかをみると結果を信じていない人より、「偽・誤情報の拡散」に不安を感じていない。「仕事が奪われる」ことに不安を感じている。



### 生成 AI の利用の有無と不安や心配（複数回答 単位%）

実際に使っている人と、使っていない人の不安の違いを見ると、利用経験がある人は「偽・誤情報」に不安を持っている。利用経験のない人は「思考力の低下」に不安を持っている。今後使ってみたい人は「情報漏洩」と「スキル格差」に不安を持っている。



#### 【全体を通して結果にたいするコメント】

アンケート実施から半年が経過した現在、情報検索の場面ではワンクリック検索の利便性により、多くの利用者が意識せずに生成 AI を活用する状況が広がっています。

一方、アンケート結果からは、生成 AI が提示する情報の正確性や信頼性に対する不安が根強く、これが利用を慎重にさせている実態も明らかとなりました。

こうした現状を踏まえると、生成 AI の利活用を社会において適切かつ安全に進めるためには、

- ① 利用者の不安を軽減するための規律・仕組みの整備
  - ② リスクを十分に理解しないまま利用している層に向けた情報リテラシー向上策の強化
- の両面から検討を進める必要があると考えます。

#### 【本件に関するお問い合わせ】

公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会（NACS） <https://nacs.or.jp/>  
 消費生活研究所提言グループ [nacs-tanimoto@nacs.or.jp](mailto:nacs-tanimoto@nacs.or.jp)